

泌尿紀要
Acta Urol. Jpn.

Vol. 31, No. 4 ACTA UROLOGICA JAPONICA April 1985

泌尿器科紀要

第31巻 第4号 1985年4月

カルシウム含有結石の成因に関する実験的ならびに臨床的研究:		
(I) エチレンジグリコール 1 α (OH) D ₃ 投与による		
ラット腎結石発生実験モデル	岡田 裕作・ほか	565
腎結石に対する腎保存手術の検討—その2—	小野 佳成・ほか	579
腎細胞癌の臨床的研究(臨床成績と予後)	米田 文男・ほか	585
腎細胞癌におけるリンパ節郭清	増田富士男・ほか	595
進行性尿路上皮癌の治療経験(英文)	中田 瑛浩・ほか	601
模擬高度 6,000 m 急性負荷実験における尿中 N-Acetyl- β -D-Glucosaminidase, β_2 -microglobulin の変動	佐藤 孝充・ほか	607
膀胱癌による膀胱全摘の治療成績	村瀬 達良・ほか	615
表在性膀胱腫瘍に対する Mitomycin C と Adriamycin の連続膀胱内注入療法(予後)	福井 巖・ほか	623
難治性頻尿に対する DMSO 膀胱内注入療法	岡村 康晴・ほか	627
睾丸腫瘍の臨床的観察	深津 英捷・ほか	633
兵庫医科大学泌尿器科学教室における1983年の臨床統計	生駒 文彦・ほか	639
多彩な組織像を示した腎盂移行上皮癌の1例	山本 正・ほか	647
両側同時発生した腎盂・尿管腫瘍症例	森川 満・ほか	655
尿失禁をとまわらない腔前庭異所開口尿管の1例	藤井 明・ほか	665
交通事故による非開放性尿管断裂の1例	松瀬幸太郎・ほか	671
尿管ポリープの臨床的検討—自験例3例を中心に—	由井 康雄・ほか	677
尿路消化管瘻の2例	原田 益善・ほか	683
Werner 症候群にみられた神経因性膀胱の1例	金親 史尚・ほか	689
膀胱原発悪性リンパ腫の1例	郷司 和男・ほか	693
交叉性精巣転位の1例	田寺 成範・ほか	701
臨床的に“Migratory Testis”である症例の睾丸組織像について	公平 昭男・ほか	705
複雑性尿路感染症に対する Ceftriaxone (Ro13-9904) の長期投与経験	大石 賢二・ほか	711
腎移植手術における Cefoperazone の使用経験	白岩紀久男・ほか	723
排尿障害に対するロバペロン錠(KN-7)の長期間投与について	鄭 漢彬・ほか	731
前立腺肥大症に対するセルニルトンの臨床効果	堀井 明範・ほか	739

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M. D.
Department of Urology, Faculty of Medicine,
Kyoto University, Kyoto Japan 606
京都大学医学部泌尿器科学教室

購読要項 (1983年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料 6,000 円 (送料とも) を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部あて、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

投稿規定 (1983年8月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。
 - (1) 普通論文の長さは、原則として、刷上り本文7頁 (400字×28枚程度) 図 (Fig) 10枚、表 (Table) 5枚までとする。
 - (2) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書、当用漢字、現代かなづかい、平がなとし、清書する。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプし、年号は西暦とする。
 - (イ) 原稿の表紙に標題、所属機関名、著者名の順に和文で併記する。下段に筆頭著者名 (山田：または山田・ほか：) と、2語 (例：前立腺がん・PSA) からなる running title を付す
 - (ロ) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、5語 (英文) 以内の Key words、抄録本文の順にダブルスペースでタイプし、その和訳をつける。
 - (3) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、Key words (和文に準ず)、running title (和文に準ず) の順にタイプし、別に標題、所属機関名、著者名、抄録の順に記した和文抄録を付す
 - (4) 数字はすべて算用数字を使用し、単位 m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μg, %, °C, pH などとする。
 - (5) 図、表、写真などはすべて別紙とし、写真はトリミングする。説明文は一括して記載し和文、英文を問わず Table 1, Fig. 2. などとする。英文が望ましい。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。図・表は誤りのないことを確認のうえ、トレースとて紙焼したものが望ましい。様式については本誌の図・表を参照する。
- (6) 引用文献は必要最少限にとどめ、引用箇所を本文中に入れる。その数は30までが望ましい。和文は楷書で、欧文はタイプする。
(例：山田^{1,3,7)}、田中ら^{1,3,~10)}によると)
雑誌の場合—著者名 (全員)：題名、雑誌名
巻：最初頁～最終頁、発行年
単行本の場合—著者名 (全員)：題名、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年
- (7) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残しオリジナルを書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。
- (8) 投稿原稿は編集委員会においてその採否を決定し、それに従って編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。
- (9) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部がおこなう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。
3. 掲載
 - (1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。
 - (2) 紙代、印刷費および最初1頁の組版費は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後におこなう。論文の長さが超過した場合、超過料を別途に申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療器具の使用などにかんする研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。
4. 別刷
実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

編集委員： 石神 襄次 前川 正信 宮崎 重 新谷 浩
 園田 孝夫 友吉 唯夫 吉田 修 (主 幹)

泌尿器科紀要 第31巻 第4号 1985年4月25日 印刷 1985年4月30日 発行
発行 吉田 修 顧問 加藤 篤 二 発行所 泌尿器科紀要刊行会
〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京都大学医学部泌尿器科学教室内 電話(075)751-3327(直通)
印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
